

いわき農林水産ニュース

平成31年3月号(第169号) 発行 3月28日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



シラウオの透きとおった細身の姿は、美しい指の喩えとしても知られています。卵とじやかき揚げが美味ですよ！

目次

- ・【特集】GAP……………p.1
- 〔各種取組の実績(2~3月)〕……………p.3~
- 〔お知らせ・連載記事〕
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果……………p.6
- ・「林業労働安全衛生規則」等の一部改正について……………p.6
- ・各種注意喚起情報……………p.7
- ・「ふくしまプライド。」販売力強化支援事業について……………p.8
- ・イベント情報……………p.9
- ・いわきハタチ酒プロジェクト⑥……………p.9
- ・家久来所長のベトナム滞在記②……………p.10
- ・GAP コーナー……………p.11
- ・6次化商品紹介……………p.12

【特集】GAP

Good Agricultural Practice

いわき市内の「認証 GAP」取得が増えています！

当所の認証 GAP 取得推進に向けた取組内容をご紹介します

○認証 GAP 取得状況

福島県は平成29年5月に「ふくしま。GAP チャレンジ宣言」を行い、県産農産物の安全・安心確保による消費者・流通業者からの信頼確保に向け、【GAP 認証日本一】を目指し認証 GAP の普及推進に取り組んでいます。

当所では、トマト・いちご等の施設園芸を中心に、水稻・果樹・菌茸類の認証 GAP 取得に向けて支援を継続してまいりました。今年度は新たに5事業者が認証 GAP を取得し、現在、13 事業者が認証 GAP を取得しています。直近では、2月26日に、JA 福島さくらいわきねぎ部会 GAP 研究会が、管内2つ目のFGAP 団体認証を取得しました。その他の認証 GAP 取得情報は以下のとおりです。



H30.9月 JA 福島さくら
いわきいちご部会高設栽培研究会
認証書伝達式の様子

表1 これまでの認証 GAP 取得状況

認証月	事業者名	品目	GAP 認証
H29.3	あかい菜園株式会社	トマト・ミニトマト	JGAP
H29.4	農事組合法人大野水耕生産組合	トマト	JGAP
H29.4	株式会社 JR とまとランドいわきファーム	トマト・ミニトマト	JGAP
H29.4	有限会社とまとランドいわき	トマト・ミニトマト・パブリカ	JGAP
H29.9	株式会社磐栄アグリカルチャー	リーフレタス(フリルレタス)	JGAP
H30.3	菊田の郷 助川農園	野菜(トマト)	FGAP
H30.3	安島美光	米(粳・玄米・精米)	JGAP
H30.3	磐城農業高等学校	米(粳・玄米)	JGAP
H30.4	いわき小名浜菜園株式会社	トマト・ミニトマト	ASIAGAP
H30.8	株式会社 JR とまとランドいわきファーム	野菜(トマト・ミニトマト)	FGAP
H30.9	JA 福島さくらいわきいちご部会高設栽培研究会	野菜(いちご)	FGAP
H31.2	JA 福島さくらいわきねぎ部会 GAP 研究会	野菜(ネギ)	FGAP
H31.2	磐城農業高等学校	トマト・ほうれんそう	JGAP

○今年度の活動実績

今年は、表2のとおり、農業者向けに認証GAPの取得推進、消費者向けにGAP理解促進を図る各種事業を実施してまいりました。

次年度も皆様へ認証GAPの理解促進及び普及拡大に向けて、様々なイベントを実施してまいりますので、よろしくお願いいたします。

表2 今年度の活動実績

H30.4月	個別相談会
H30.5月	第1回いわき地方GAP推進協議会、個別相談会
H30.6月	おいしいふくしまいただきます！キャンペーン
H30.7月	個別相談会
H30.9月	いわき地方認証GAP研修会 いわき地方報道機関向け認証GAP説明会、個別相談会 おいしいふくしまいただきます！キャンペーン
H30.10月	いわき大交流会、第2回いわき地方GAP推進協議会
H30.11月	いわき地方認証GAP研修会（労働安全の責任者研修）
H30.12月	認証GAP先進事例調査、個別相談会
H31.1月	いわき地方認証GAP研修会（関係法令研修）、個別相談会
H31.2月	おいしいふくしまいただきます！キャンペーン マルト店舗GAPフェア（※）、平成30年度GAP見学ツアー（※）
H31.3月	第3回いわき地方GAP推進協議会



H30.9月 GAP研修会における
パネルディスカッションの様子

※ 詳しい内容は p.11 ページのGAPコーナーをご覧ください。

○そもそも「認証GAP」とは？

GAP（農業生産工程管理）とは、これまで経験や勘で行ってきた生産工程に基準を設け、記録・点検・改善することで、安全安心な農産物生産に取り組むことです。特に、「認証GAP」は、外部の認証機関から、GAPの取組が認められる制度であり、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会の食料調達基準の要件の1つとなっております。

県ではGLOBAL G.A.P.、ASIAGAP、JGAP、FGAP等の認証GAP取得を促進しております。

それぞれ認証機関や基準が異なっており、平成29年7月に創設された県独自の認証GAP「FGAP」は、放射性物質対策の基準を設けているといった特徴があります。

認証GAPは農業資材管理の徹底によるコスト削減やルール統一による労働者の自主性向上、トレーサビリティの徹底等の様々なメリットがあります。認証GAPは市場・小売業界でも認識が広まりつつあり、認証GAP農産物の需要は高まってきております。

（農業振興普及部）



上記のようなマークが貼付された農産物は、認証GAPを取得した農産物です



第2回いわき農業普及推進懇談会を開催

〔3月1日(金)〕

県いわき合同庁舎において、平成30年度第2回いわき農業普及推進懇談会を開催しました。当所では、農業者と各関係機関・団体の意見や要望をお聴きし、農業農村の実態に合わせた効率的な普及指導活動の展開を図っています。



(懇談会の様子)

会議では今年度の普及指導活動実績、大規模稲作経営体の育成やリンドウ産地の形成、認証GAP推進、いわき農業青年クラブ連絡協議会の活動支援の取組状況、次年度の普及指導計画(案)の概要等について説明しました。

委員からは米の品質向上に向けた指導や県オリジナル水稻品種等の評価、食育の重要性、産地の維持発展に向けた生産者の集団化や法人化、イノシシ等による被害防止対策などについて、活発に意見交換が行われました。(農業振興普及部)

第3回いわき地方農地中間管理事業等推進連絡調整会議を開催

〔3月5日(火)〕

県いわき合同庁舎において、平成30年度第3回いわき地方農地中間管理事業等推進連絡調整会議を開催しました。

会議には、いわき市、農業委員会、福島さくら農業協同組合、地域農業再生協議会、農業共済組合いわき支所、各土地改良区、福島県農業振興公社等の担当者が参集し、今年度の事業活用の実績(約90haの集積)や重点地区の活動状況等について、情報を確認、共有しました。平成31年度の重点地区は、ほ場整備地区や新規調査地区、人・農地プラン作成予定地区などを中心に、12地区となる予定です。

関係機関の連携を密にしながら、人・農地プランの作成を始め、認定農業者の育成確保、農地中間管理事業を活用した担い手への農用地利用集積の推進等に引き続き取り組んでまいります。

(農業振興普及部)



(会議の様子)

第2回沼之内朝市

〔3月9日(土)〕

いわき市漁業協同組合とNPO法人ワンダークランドが3月9日に沼之内市場で朝市を開催し、多くの来場者で賑わいました。

朝市では、ヒラメ、スズキ、ヤナギムシガレイなどの新鮮な魚がお手頃な価格で販売され、瞬く間に売り切れとなりました。また、模擬セリも行われ、一般の来場者も参加して



ふるまいの
サンマつみれ汁



(底びき網の魚仕分け体験)

大いに盛り上がり、会場は笑顔に包まれました。この他、漁協女性部による汁物の振る舞い、漁船乗船体験に加え、魚の仕分け体験が行われました。これは初の試みで、底びき網で獲れた魚を網のまま市場へ運び、これを子供と漁師さんが一緒に仕分けを行うものです。子供たちは網から出てくる魚の量や種類に驚いた様子で貴重な体験になったと思います。こうしたイベントを通じて、県内水産物の風評払拭や地元水産物の現状を知るきっかけとなれば幸いです。(水産事務所)

第7回福島県漁業の今と試食会

〔3月2日(土)〕

東京・築地魚河岸の「魚がしスタジオ」において、福島県漁業協同組合連合会主催による「第7回福島県漁業の今と試食会」が開催されました。これは、福島県産の海産物を試食してもらいつつ、モニタリングや試験操業のパネル展示物等で福島県漁業の今を知ってもらうために、開催しているイベントです。



試食の後はアンケート記入にご協力いただきました。

野崎県漁連会長の挨拶の後、来場者には、ヒラメの刺身、コウナゴ、煮アナゴの試食が振る舞われました。試食後にはアンケート調査をお願いし、協力された方にはお土産としてカツオの缶詰がプレゼントされました。

当日は天気も良く外国人を含め多くの方が来場し、皆「ヒラメの旨味がすごい」、「コウナゴってとてもおいしい」、「アナゴが柔らかい」などと大好評でした。当初、試食は1,000食分を用意していましたが、来場者が多く、お昼前に品切れになる勢いだったため、急遽100食分を追加するなど大盛況でした。



(野崎県漁連会長より開催挨拶)

さらに、アンケートには福島県の漁業を応援するコメントが多数寄せられ、本格操業に向け、非常に励みとなる1日になりました。
(水産事務所)

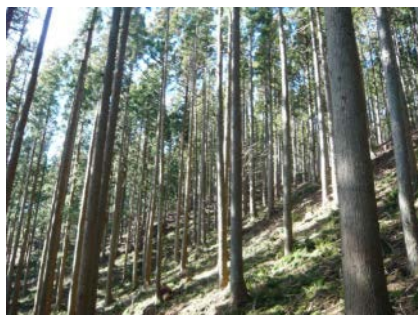
トピック

いわき市森林組合林業コンクールの表彰式が行われました

〔2月25日(月)〕

いわき市森林組合第49回通常総代会席上において、いわき市森林組合林業コンクールの表彰式が行われました。このコンクールは、森林組合員の林業技術の向上と林業経営の改善を図り、地域の林業に資することを目的に毎年開催されています。今年度は6点の応募があり、いわき農林事務所長賞は、造林技術部門では荻野誠氏、間伐技術部門では23名会代表平山秀夫氏に授与されました。

いわき管内の人工林は高齢級化が進み、整備が必要な森林も多いことから、このコンクールの施業地が森林組合員の皆様の森林づくりの見本となり、いわき市の森林整備が促進されることを期待します。(森林林業部)



間伐技術部門
23名会代表 平山秀夫氏所有の森林



造林技術部門
荻野誠氏所有の森林

「ふくしま・いわき盛りだくさんフェスタ in ミデッテ」〔3月8日(金)~10日(日)〕

日本橋ふくしま館MIDETTE（東京都）において「ふくしま・いわき盛りだくさんフェスタinミデッテ」を開催し、いわきの観光・物産をPRしました。

当日は、いわき郷土料理「サンマのポーポー焼き」をはじめとした「常磐もの」や、いわきライキを使用した加工品など、いわきを代表する商品の販売や、平商業高校生による開発商品の販売、いわきの日本酒・ワインの飲み比べセットを販売しました。

また、特別企画として、いわき市内の有名シェフや生産者と食を通して交流し、いわきの食の魅力や良さを伝える「いわき“食”の大交流会」を開催しました。参加者からは「シェフや生産者のお話を聞きながらいわきの食を楽しむことができ良かった」、「食材の背後にあるストーリーを知ること素材の美味しさがより一層感じられた」といった声がありました。

これからも、観光や食などいわきの多彩な魅力を多くの人に知ってもらえるよう、県外におけるPRを積極的に実施してまいります。（いわき地方振興局）



いわき商品の物販ブース。お客様との対面販売により、直にいわきの食の魅力を伝えました。



期間限定、いわきの日本酒飲み比べセット。お酒もおつまみもいわき産です。



「いわき“食”の大交流会」では、シェフや生産者との交流を通していわきの食の魅力を発信しました。



高校生による積極的な商品PRに、多くの方が足を止めて聞き入っていました。

いわき地方山火事防止連絡協議会

〔2月19日(火)〕

県いわき合同庁舎において、いわき地方山火事防止連絡協議会を開催しました。この協議会は、森林資源の維持と自然環境の保



全を図るため、関係機関や団体が連携して、市民に対して山火事防止を啓発していくことを目的に開催しています。会議では、いわき地方の山火事防止強調月間を春期は3月1日から5月10日まで、秋期は11月1日から12月20日までと設定し、のぼり旗の設置やチラシを入山者に配布する等広報活動を実施していくことを確認しました。これからの季節は、空気が乾燥し火災が発生しやすい時期となり、特に、震災後入山を控えていた方が、山に入る機会が増え始めていることから、山では「火を使わない」ことを心がけて、山火事を起こさないよう十分注意してください。（森林林業部）



（連絡協議会の様子）

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（平成31年2月分）

農林畜産物の検査結果

平成31年2月の農林畜産物モニタリング検査では、検査した5品目21検体すべてにおいて放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

内訳は（表1）のとおりです。また出荷制限状況は（表2）のとおりです。（企画部）

（表1）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

菌床しいたけ（施設）8、菌床なめこ（施設）2、ふきのとう（野生）1、牛肉 6、原乳 4

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（2月末日現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る）*、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）

*わらび（栽培）は該当生産者6名のほ場に限り出荷制限が解除されました。

海産魚介類の検査結果

平成31年2月の水産物モニタリング検査では、624検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

放射性セシウムの検出限界値未満の割合は、平成31年2月には99.5%となっています。3月18日現在の出荷制限等指示魚種は表の5種類になっています。（水産事務所）

（表）海産魚介類に関する国の出荷制限等指示

ウミタナゴ	サクラマス	ムラソイ
カサゴ	ヌマガレイ	ピノスガイ
タロダイ	コモンカスベ	

平成31年3月18日現在

ウミタナゴ他の計3種は、3月14日に制限が解除されました。

「林業労働安全衛生規則」及び「安全衛生特別教育」の一部が改正されました

伐木作業等における安全対策を強化するため、事業者が講ずべき措置等の新設・見直しが行われました。

引き続き、林業労働災害の防止に御協力をお願いします。（森林林業部）



労働安全衛生規則の一部を改正する省令等の概要
(伐木作業等における安全対策の強化)



1 改正の趣旨

「伐木等作業における安全対策のあり方に関する検討会報告書」（平成30年3月6日公表を踏まえ、伐木、かかり木の処理及び造材の作業における危険並びに車両系木材伐出機械を用いた作業による危険等を防止するため、事業者が講ずべき措置等について見直しを行う。

2 主な改正の内容

(1) 伐木の直径等で区分されているチェーンソーによる伐木等の業務の特別教育を統合すること。
 (2) 伐木作業等における危険を防止するために、次の事項を規定すること。
 ① 伐木作業において、受け口を作るべき立木の対象を胸高直径40cm以上のものから20cm以上に拡大する等立木を伐倒するときの措置を義務付けること。
 ② 事業者に対して、かかり木の速やかな処理を義務付けるとともに、事業者及び労働者に対して、かかり木の処理における禁止事項を規定すること。（図1～図3）
 ③ 事業者は、伐木作業において、当該立木の高さの2倍に相当する距離を半径とする円形の内側には、当該立木の伐倒の作業に従事する労働者以外の労働者を立ち入らせてはならないこと等を規定すること。
 ④ 事業者は、チェーンソーによる伐木作業等を行う労働者に下肢の切創防止用保護衣を着用させること、また、当該労働者に、当該切創防止用保護衣を着用することを義務付けること。（図4）

3 施行期日等

○公布日 2019（平成31）年2月12日
 ○施行日 2019（平成31）年8月1日（一部の規定（は公布日、特別教育の部分は2020（平成32）年8月1日）



注意！

山菜等の出荷制限について

山菜の発生・採取の時期となりましたが、採取者や直売所担当者の皆様におかれましては、次の点に留意するようお願いします。

- 現在、いわき市産の山菜のうち、出荷が制限等されている品目は**別表**のとおりです。
これらの品目は地域全体としての安全性が確認されていないことから、出荷制限等は今シーズンも継続しています。出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により「基準値以下」であっても出荷・販売はできません。
※出荷制限等品目は、市町村ごとに定められています。
福島県内のもは、福島県県のHP「ふくしま新発売。」(<https://www.new-fukushima.jp/>)、福島県外のもは、厚生労働省HP(https://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/shokuhin.html)、で確認していただくか、森林林業部へお問い合わせください。
- いわき市産の出荷制限等品目以外の山菜については、県において緊急時環境放射線モニタリング検査を実施しており、今シーズンのモニタリング検査結果を確認のうえ出荷・販売するようお願いします。モニタリング検査の結果は、新聞や県HP「ふくしま新発売。」で公表されます。

(森林林業部)

(別表) いわき市産山菜の出荷制限等品目

出荷、採取	品 目
出荷制限	たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る)、わらび(野生のものに限る※)、こしあぶら
出荷自粛	さんしょう(野生のものに限る)

※わらび(栽培)で出荷・販売できるものは、平成29年9月11日に出荷制限が解除された、該当生産者6名のほ場で生産されたものに限ります。

注意！

農作業中の事故にご注意ください！

春の暖かな陽気が感じられる季節になってまいりました。生産者の皆様におかれましては、トラクタに乗る機会も増えていることと思います。

農作業中の死亡事故の約7割は農業機械に関連するもので、中でも乗用トラクタによるものが多数を占めます。皆様が播く種子は、皆様の命があればこそ収穫でき、家族や地域の方に味わっていただくことができます。春の作業にあたっては、心にゆとりをもち、決して焦らず、安全第一を念頭に置き作業を行っていただきますよう、お願いいたします。

(農業振興普及部)

注意！

霜や高温による農作物への影響にご用心

4月1日から5月31日まで、晩霜による農作物被害の防止及び事後対策のため「いわき地方防霜対策本部」を設置します。梨、野菜苗などの凍霜害に注意と対策をとりましょう。また、気温は平年より高い傾向が2月後半から続いており、農作物の生育前進も懸念されます。作業の遅れや熱中症、今後の高温による水稻苗の焼け等も併せて注意しましょう。

(農業振興普及部)

「ふくしまプライド。」販売力強化支援事業について

県産農林水産物の販売促進に向けた取組等を支援する『「ふくしまプライド。」販売力強化支援事業』の活動団体を募集します。募集期間は4月中を予定しておりますので、ご興味のある方は当所企画部までお問い合わせください。(企画部)

1 概要

県内の市町村、民間団体^{*}、県域等農業団体が県産農産物の価値を伝え、販売・消費の拡大を図るため、国内において実施する県産農林水産物の販売促進活動等に対して支援を行う。

2 対象団体

県内に主たる事務所を置く特定非営利活動法人、事業協同組合、企業組合、公益社団法人、公益財団法人、一般社団法人、一般財団法人、2戸以上の農林漁業者や商工業者が組織する任意団体 等

3 事業内容・補助額

民間団体事業補助額：上限75万円

さらに、次のような取組の場合には、補助上限額がそれぞれ50万円かさ上げとなります。最大で、175万円の補助が可能です(下記の両方を満たす場合)。

- ・GAPによる生産物のPRや販売促進を行う場合
- ・パッケージングの向上による販売促進に取り組む場合

4 補助対象経費

国内において実施する県産農林水産物の販売促進等のPR活動に要する経費^{*}。

※事業委託費、広報費、旅費、資材作成費、デザイン費、試作費、ウェブサイト作成・維持費、調査費、イベント運営経費、謝金、保険料、施設借料、車両借上料、消耗品費 等



H30年度活用事例
東京で県産農林水産物を販売

お問い合わせ

いわき農林事務所
企画部地域農林企画課

TEL
0246-24-6197
FAX
0246-24-6196



菊田小学校の「田んぼの学校」を平成31年度も開校します！

農作業体験を通じて農業・農村地域の食べ物や命の大切さを学ぶ「田んぼの学校」を、平成31年度も引き続き、菊田小学校児童とともに実施します。

平成31年度は、新たな取り組みとして、田んぼの水族館(田んぼの周りで採捕した生きものの展示)やマコモダケ料理写真集作成等を計画しています。1年間の活動計画は以下のとおりで、開校式を4月23日(火)に予定しています。児童たちの今後の活躍をお楽しみに！(農村整備部)

活動回	日付	活動内容
第1回	4月23日(火)	開校式、マコモダケの苗植え
第2回	6月18日(火)	田んぼの周りの生きもの調査
第3回	7月16日(火)	マコモダケの生育状況調査
第4回	9月24日(火)	マコモダケの収穫・実食
第5回	11月12日(火)	活動成果発表会、閉校式

※雨天等で、日付が変更となることがあります。



平成30年活動写真
(10月4日 マコモダケの収穫)

イベント情報

かしまふれ愛さくら祭り

- 日 時：平成31年4月7日(日) 10:00~16:00
- 会 場：鹿島ショッピングセンターエプリア北側駐車場及び矢田川周辺
- 主 催：鹿島地区地域振興協議会



← 昨年度の様子

いわき市内の鉢物生産者団体である「いわき花き鉢物研究会」が出店し、アルストロメリア・アツツ桜等の春物品種を販売します。当日は生産者自らが販売するため、水やり等の管理方法について直接聞くことができます。生産者が心をこめてつくった鉢物を、ぜひお手にとってみてください。

「いわきハタチ酒プロジェクト」新酒完成!

第6報 ~二十歳の年の、米作りから酒造り体験~

若い世代に日本酒の素晴らしさに触れてもらうことを目的に、1年を通して二十歳前後の若い皆さんに、米作りから酒造りまでを体験してもらう「いわきハタチ酒プロジェクト」は、3月3日に第1弾「純米酒・おりがらみ」の発売を始め、いわき芸術文化交流館アリオスで「お披露目会」を開催しました。

この夏の酷暑の影響で米が硬くなったため、酒造りを引き受けた太平桜酒造の大平社長も、醸造には大変苦労したそうです。その結晶として出来た「純米酒」は、太平桜酒造が得意とする、しっかりした日本酒本来の味わいに加えて適度な酸とジューシーさも兼ね備え、企画の意図を具現化した「若さ」と「成熟」を併せ持つ逸品に仕上がりました。更にPRするならば、福島県オリジナルの酒造好適米「夢の香」は県内酒蔵で広く使用されていますが、いわき産「夢の香」での醸造は、このハタチ酒が初です。

既にデビューした「おりがらみ」の他、「生原酒」(4月上旬発売)、「火入れ原酒」(4月下旬発売)、「火入れ加水版」(発売時期調整中)と味わいを熟成させて販売していく予定です。

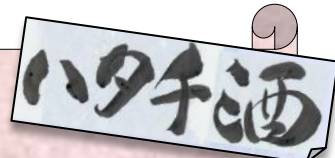


(お披露目会の様子)

以下の実行委員会酒販店の他、市内居酒屋・飲食店でも扱っていますので、是非ご賞味ください。

そして、ハタチ酒プロジェクトは「第二期」活動も計画中です。これまでの活動・今後の予定はハタチ酒のfacebookをご覧ください。

(農業振興普及部・農村整備部)



取扱店舗

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ①あわのや酒店(平・大工町) | ⑥タイハイ酒店(常磐・下湯長谷町) |
| ②酒のいとう(勿来町・窪田町) | ⑦竹屋酒店(平・下高久) |
| ③酒のしのぶや(平・塩) | ⑧丸伊酒店(平・四丁目) |
| ④酒のまるとみ(小名浜・大原) | ⑨矢吹酒店(平・六丁目) |
| ⑤さわきや(平・中町) | |

facebook

<https://www.facebook.com/iwaki2Osake/>



家久来所長の ベトナム滞在記 Part2.

2月号に引き続き、ベトナムの旧正月(テト)に合わせた「サンシャインいわき梨(新高)」のプロモーション活動等において、ホーチミン市に滞在した際に感じたことをお伝えします。

【2,000,000 ドン】

1万円をベトナム通貨へ両替・・・「2,000,000 ドン」を手に入れました。ベトナムの通貨単位は「ドン」、日本円との関係性は 100 ドン≒0.5 円、「表示されている値段からゼロを二つ取って二で割ると円になる。」と教えられました。

ベトナムで有名(?)な「333(バーバー)」という缶ビール 350 mlが 13,000 ドン(約 65 円)、たばこ(洋もく;マルボロ…どの銘柄のたばこの箱にも強烈な写真が掲載されており)が 37,000 ドン(約 185 円)など、私が必要とする嗜好品はとても安価に感じられました。

「たばこ」について話を広げますと、レストランやホテルの中ではもちろん禁煙ですが、ホテルでは玄関を出たところに、大きな灰皿が左右に設置されており、宿泊者に限らず、喫煙者が絶えませんでした。

ちなみに、あるお店で、ベトナム人の喫煙率を質問したところ、「100%だ。」と言われ困惑していると、「男性が90%、女性が10%で足すと100%だ。」とのこと、笑ってしまいました。確かに男性の喫煙率は高そうですが、90%はいくらなんでも高すぎると思います。

なお、2,000,000 ドンの「ゆくえ」ですが、サークルKやファミリーマートの嗜好品、視察先での飲食、土産、ドリアンをおいしくいただくなど、全額支出まで四日を費やしました。



King of Fruit ドリアン
175,000 ドンでした

【ギャップ】

ローカルマーケットでは、衣類から食料品、雑貨や花きなど、軒を並べて陳列されており、蟹や鮮魚、中には干し柿もありました。特に目についたものは「果物」で、豊富な品揃えには驚かされ、昔、タイに2年間滞在していた際によく食べていた果物もあり、当時を思い出しました。同じ東南アジアですものね。

さて、食料品の販売は、日本と同様、個別に値札が貼られている商品もありますが、100gあるいは1kgの値段を表示し、購入者が必要な分量だけ買う「量り売り」の文化が残っております。イオン店内の野菜売場などでも、重さを量って値札を付けるカウンターが設置されておりました。話を伺うと、「冷蔵庫」が十分に普及していないことから、食材をその都度使い切るため「量り売り」が必要とのことでした。

そういえば、サイゴンセンター内にあるホーチミン高島屋の食品売場を視察していた際、おいしそうなメロンが山積みされている棚に見慣れたアルファベットを発見、「G.A.P」と書いてありました。“すごいな、ベトナム!”と思った次第です。黒板の値段を見ると、1kgあたり65,000ドンまたは75,000ドンと書かれているほか、メロン一つ一つに値札が貼られており、100,000ドン前後でした。憶測ですが、ベトナムの方々にはキログラムあたりの値段を見て、高いか安いか判断されるのかなと感じました。日本も昔は「量り売り」が当たり前だったのになあ。



GAP!!

今号で「ベトナム滞在記」を終了します。

(いわき農林事務所長 家久来克之)

GAP コーナー

GAP (Good Agricultural Practice) : 「農業生産工程管理」

市内各マルト店舗にて GAP 農産物の販促フェアを実施しました

〔2月11日(月)～17日(日)〕

いわき市内のマルト7店舗にて、認証GAPを取得したトマト・いちごの販促フェアを開催しました。本フェアは消費者へ認証GAPの理解促進による需要拡大を目的に開催し、店頭でGAPのマークがついた認証農産物を販売しました。



FGAP マークが貼付されたいちごを販売

開催期間中の16日には、GAP農産物の生産者である農事組合法人大野水耕生産組合の大和田哲嗣氏とあかい菜園(株)の小島直記氏が店頭立ち、認証農産物の試食を行いました。生産者からは、消費者と積極的に交流し、消費者に安全・安心な農産物を提供するためGAPに取り組んでいることを紹介しました。消費者からは「GAPの取組は知らなかった。今度はGAPのマークを意識して売場を見たい。」といった声がありました。



コーナーにて生産者(小島氏)が認証農産物を紹介する様子

(農業振興普及部)

認証GAP取得農場の見学ツアーを開催しました!

〔2月23日(土)〕

GAPの理解促進を図るため、県内外の消費者56名を対象に、認証GAP取得した農場2カ所を巡る見学ツアーを開催しました。参加者は生産者から説明を聞きながら、農場でGAPに取り組む様子を直接見る事ができました。

今回は、(株)JRとまとランドいわきファームの川口有紀氏と農事組合法人稲郷神谷の鈴木一成氏、酒井和哉氏が講師となり、実際にGAPに取り組む様子を紹介しました。参加者からは「GAPに取り組むことは大変であることを知った。もっと取組を広めてほ



選果時の異物混入対策について生産者(川口氏)から説明を受ける様子



ほ場内にてGAPの取組内容について生産者(酒井氏)から説明を受ける様子

しい」といった意見が多くあがりました。アンケート調査結果からも、参加者のほとんどの方からGAPへの理解が深まったとの回答があり、理解促進に繋がる有意義な見学ツアーとなりました。

今後も、農業者への支援の他、消費者への理解促進に向けた活動を続けてまいります。

(農業振興普及部)

こだわりと美味しさがつまった
いわき市産農産物を使用した商品をご紹介します！

all about bakery(オールアバウトベーカリー)では、いわき市産農産物や農産物加工品を使用したパンを販売しています。市内農家との出会いから、農産物がパンの味を引き立てることに気がついたという店主の小野寺さんは、農産物の旬に合わせて様々な商品を考案しています。親バカトマトで有名な「助川農園」(錦町)のトマトを使用した、トマトの鮮やかな色が目を引く「トマトフォカッチャ」や原木椎茸の栽培や杵つき餅の販売など幅広く事業に取り組んでいる「ファーマーズハウスさわ」(渡辺町)の柚ジャムを使用した、甘みと酸味のバランスが絶妙な「柚キューブ」などが人気です。今後も新商品が登場する予定ですのでお楽しみに！店主こだわりの味をぜひお召し上がりください。



店舗外観

お問い合わせ ●いわき市草木台1-10-16
all about bakery ●TEL.0246-29-0380
●月・火曜日定休

トマトフォカッチャ

●販売価格/200円(税込)
表面はカリッと中はもちっとした食感のパン生地と、一体となったトマトの旨みとチーズの塩気が互いの味を引き立てる一品です。



柚キューブ

●販売価格/180円(税込)
甘酸っぱい柚ジャムが粉砂糖をまぶしたキューブ型の生地に包まれており、噛むほどに爽やかな香りが口の中に広がります。



編集後記

だんだんと春の陽気が感じられるようになってまいりました。4月7日(日)の「かしまふれ愛さくら祭り」(p.9 参照)では、「いわき花き鉢物研究会」の方々がアルストロメリアやアツツ桜等の春物品種を販売するようです。市内の直売所や花屋さんでも、いわきの生産者の方がつくった春の鉢物が並ぶようになりますので、新しい年度の始まりにぜひ！花を取り入れてみてはいかがでしょうか。

平成30年度もとうとう終わりを迎えます。次年度も、引き続きいわきの農林水産業に関する情報を発信してまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース